

## 京都レッツラーン大学校 実現可能性調査報告

2012.3.11

特定非営利活動法人  
学習開発研究所  
西之園晴夫(nisinohr@u-manabi.org)  
堀出雅人(horide@ks-pl.org)

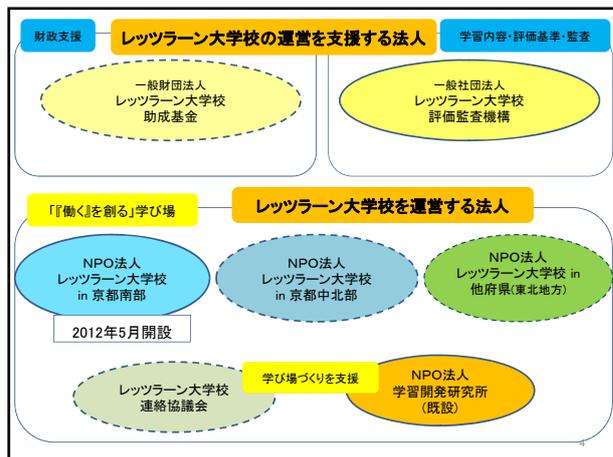
1

### 学ぶことの原型

- 知識を学ぶ → 図書館, Wikipedia, Web上の知識
- 実態を学ぶ → 調査する, インタビューする, 実践する, 参加する
- 目指して学ぶ → 検定資格取得, 就職, 論文作成

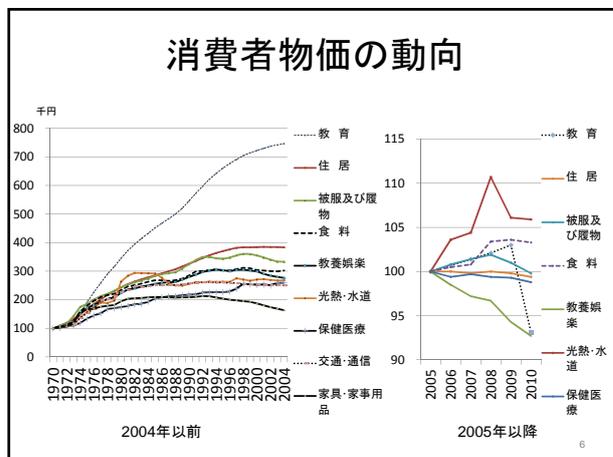
• レッツラーン大学校では地域密着型の非大学型高等教育として, とくに「実態を学ぶ」, 「目指して学ぶ」のスタイルが重要である。

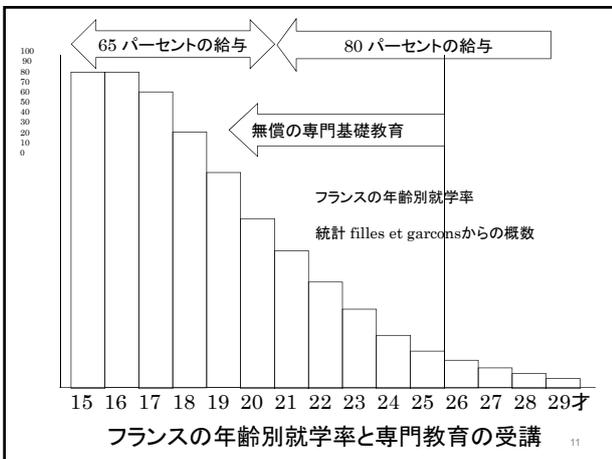
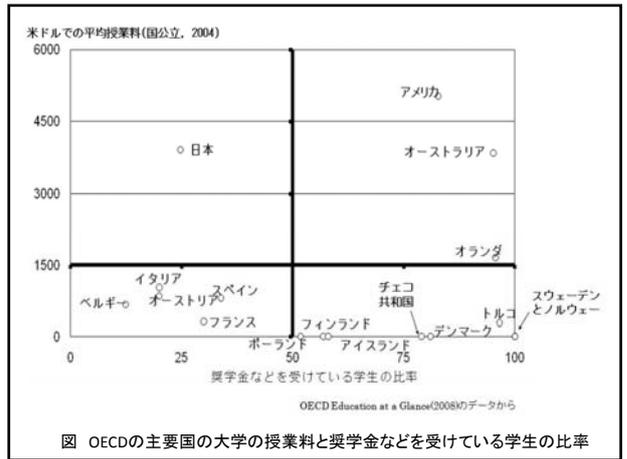
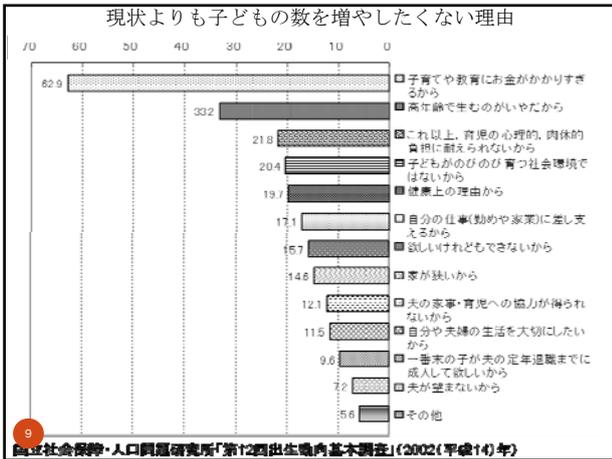
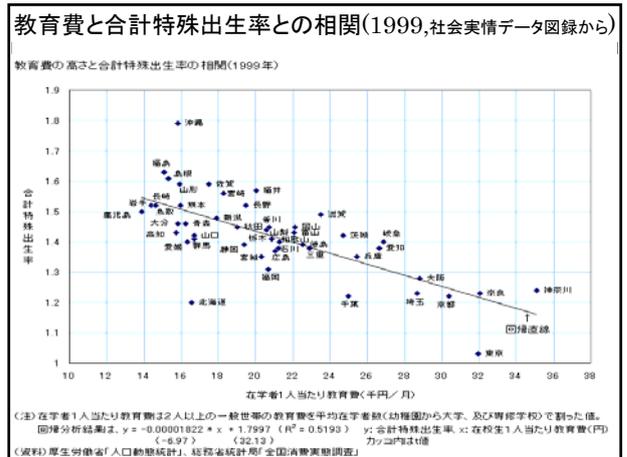
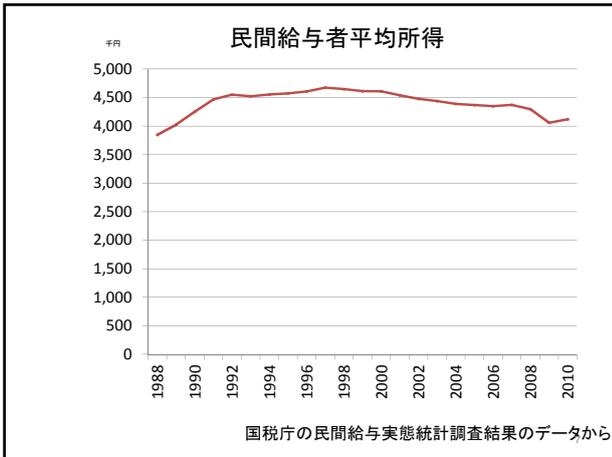
2

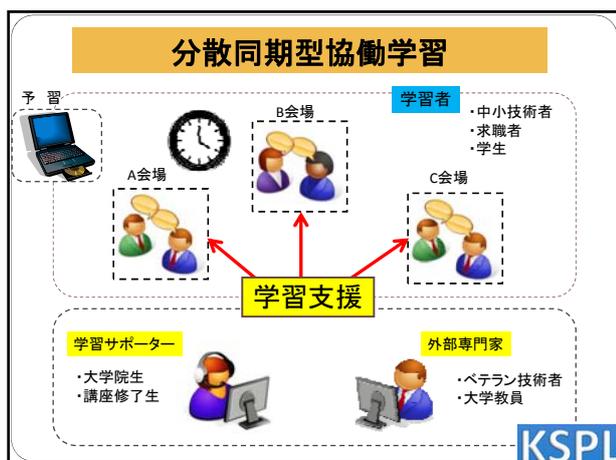


### 京都レッツラーン大学校の対象者

- ① 職能向上を目指す中小企業の技術者、高卒就職者
- ② 就職を目指す失業者、生活保護世帯など、なかでも若者ならびに有能な中高年の求職者
- ③ 中小企業に就職することを目指す大学生を優先し、中小企業のもつ技術力を理解したい学生







### 学習のスタイル

- ① 分散同期型協働学習  
自主学習→協調自律学習からの発展
  - ② インターネットを利用したコミュニケーションの可能性を最大限に活用する
  - ③ 独習するときにスマートフォンやタブレットPCも含めてさまざまな資源を活用する
- 高校数学：金沢工業大学中村晃准教授の検索型教材

KIT 数学ナビゲーション

<http://w3e.kanazawa-it.ac.jp/math/>

14

### 学習クラスの編成と評価基準

#### ① クラス編成

(就業者：求職者：学生 = 1：1：1)

2 × 3 × 4 = 24名

3名 × 8グループ

4名 × 6グループ

6名 × 4グループ

#### ② 評価基準

中央職業能力開発協会(JAVADA)

業種－職種－職務－能力ユニット

国際規格 ISO29990(学習サービス)

15

### 学習の展開(1)

#### 1. 学習のウォーミングアップ

- ① 自然な感情を表出できる雰囲気作り  
アイスブレイキング, さまざまなゲーム
- ② 異なる考え方や見方の尊重  
価値観や基本的問題を問う課題の討議  
個性と我はどのように違うか?  
エレクトロニクス産業を活性化するための具体的な方策は?
- ③ 目標を共有することを目指す  
各自が自分に適した目標を設定し、それをお互いに理解する

16

### 学習の展開(2)

#### 1. 予習することを前提として疑問を持ち寄る

- ① 疑問点についてお互いに確認
- ② 演習問題を解いてお互いに確認する
- ③ どうしても解決しないときは専門知識についての助言者に助言を求める(ネット利用)

#### 2. 学習方法についての経験を交流する

参加者各自が異なる学習方略もっているためその経験を交流する

#### 3. 理論の学習と実験・簡単な実習を交互に行う

17

### 学習コスト

#### ① 公式学習のコスト

4年間124単位 124単位 ÷ 2単位/科目 = 62科目

4年間授業料 国立大学

$535,800 \times 4 + 267,900 = 2,411,100$

$2,411,100 \div 62 = 38,888 \text{円/科目}$

#### ② 不公式学習の学習コスト(レッツラーン大学校)

分散同期協働学習 1科目 2時間 × 12回 = 24時間

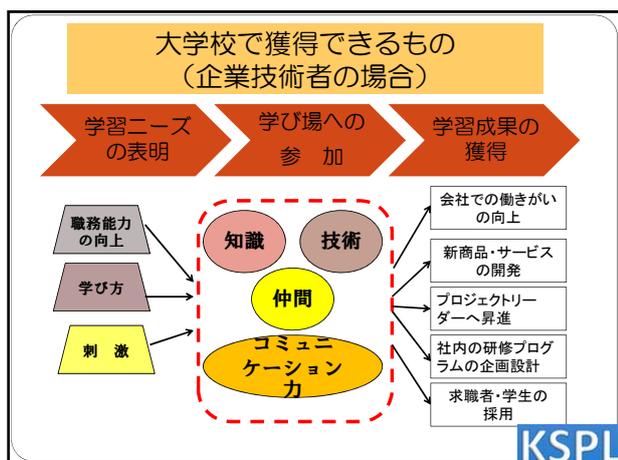
20,000円 持続不能

30,000円 3年目で年間収支ゼロ 開発費4年目から回収

40,000円 3年間で開発費を含めて収支バランスゼロ

無償 各種の支援, 地域住民の支援, 関連業界  
ビジネスモデル=地域商店街との協賛

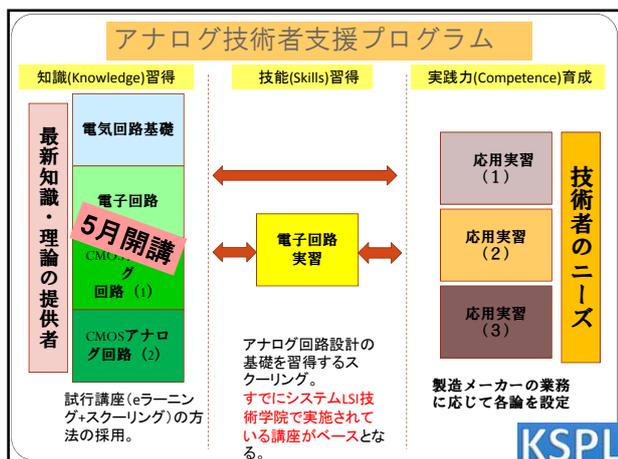
18



### アナログ技術者支援プログラム

- 科目 **電気回路基礎** (試行講座実施済み)  
**電子回路基礎** (2012年5月から試行講座開始)  
**CMOSアナログ回路(1)** (試行講座実施済み)  
**CMOSアナログ回路(2)** (試行講座実施済み)
- 教材 大阪大学名誉教授谷口研二先生の講義映像
- スケジュール 各12回シリーズ
- 学習時間 毎週1回120分(+講義映像の予習を前提)
- 学習方法 グループで集まり協働学習
- 学習支援者 該当分野の専攻の大学院生, 専門家
- 学習成果 最終テスト, 課題レポートを合格したも  
のには修了証書を発行

**20**



### 企業とKSPLとの協働のカタチ

- 単年でも可能
- ① 一般財団法人レッツラーン大学校助成基金への寄付  
特典：運営に直接・間接の参加
- ② (1) 講座の運営資金の寄付  
特典：冠講座として講座名に出資者の名前をつける  
(2) 講座に必要な物品供与  
特典：講座の後援として物品に提供者の名前をあげる  
(3) 講座の人的支援(例えば, 企業OBによる学習サポート)  
特典：講座の講師, 参加者の派遣, 後援として提供会社の名前をあげる
- ③ そのほか...  
NPO法人レッツラーン大学校in京都南部のホームページに協力者として社名・個人名の掲載

**22**

### 大学人とKSPLとの協働のカタチ

- ILD主催の「京都レッツラーン大学校支援講座」を開催する
- 1時間1,000円の有料としてその受講料を郵便局に開設する口座「京都レッツラーン大学校設立助成基金」に振り込んでもらう。
- 1回2時間として大学の1学期の授業に相当する内容とすると24時間になるので24,000円の見積りになる。
- 講座の運用は学習サポートと専門技術支援者によって実施する。大学院学生あるいは退職している専門家

**23**

### 誰にでもできる貢献

- 自分のもつ知識やノウハウをメディア化して提供
- 対象者は学生、一般社会人でもよい。この場合はNPO学習開発研究所主催の「京都レッツラーン大学校設立支援講座」となる。
- 受講料を「京都レッツラーン大学校支援基金」に振り込む。1コマ(2時間相当)で2,000円
- 学習サポート(時給1,500円)と専門技術相談員(時給2,500円)への謝金は上記基金から支出する
- 材料費など必要経費、会場費なども基金からまかなう
- 4-6名の試行講座を2回実施して学習ガイドブックの修正を行う。このときの経費も基金から支出する
- 基金に1口2,000円の小口寄付をする。
- 東北地方への支援プログラムを歓迎(石巻、仙台)

**24**